

私たちの暮らしと税金
～税の大切さに気づき、これからの日本の財政について考えることができる授業～

石巻市立蛇田中学校
教諭 手代勝巳

1. はじめに

私たちの身の回りには税金によって整備されている施設や行われているサービスがたくさんある。

しかし、生徒の意識の中の『税』のイメージは多くが『消費税』であり、「余計に払わなくてはならないもの」というイメージが大きい。何のために税を支払っているのかが分からず、嫌だなと考えている生徒も少なくない。なぜ税金を支払うのか、税金がなくなったらどうなるのかについて考え、税についてのしくみへの理解を深めさせていきたいと思い、今回の租税教育を計画した。

また、社会科教育の大きな目標として「国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」があり、税についての知識を正しく身に付けることも公民的資質の基礎として大切にしたいと考える。

以上のことから、生徒の意識を大きく変えることを目的として授業を展開していきたい。

2. 生徒の実態

今回、租税教育を受けるのは、蛇田中学校3学年5クラス193名である。どのクラスも、授業に前向きに取り組み、社会科に対しても関心が高い。公民の学習は、1学期後半から始まったが、自分たちの身近なことを取り上げた題材が多く、毎時間興味をもって授業を受けることができている。

租税教育に当たって、税に関してのアンケート調査を実施した。以下はその結果である。

税についてのアンケート（3学年 190名）

問1 税金について、どんなイメージを持っていますか？

無駄なお金。物価が高いが、国民のためにあるもの。〇〇税。難しい。消費税高すぎる。増税。高い。必要なもの。何にどのくらい使っているのかわからない。お金。あまり良いイメージがない。使い道がいまいちわからない。国民によって納められ、様々なことに使われるお金。必要があるのか。国に送るお金。5%から8%に上がったもの。ものの値段にプラスされてあるもの。自分たちの生活を支えるお金。必要な制度。もしもの時のためには必要なもの。

問2 日本にはどのような種類の税金があるか？

消費税（149人） 租税（2人） 所得税（42人） 自動車税（7人） 年金（1人） 関税（19人）
地方交付税（1人） 住民税（3人） たばこ税（35人） 納税（9人） 固定資産税（8人） 入湯税（1人）
相続税（5人） 印税（18人） 土地の税金（3人） 市税（1人） 国税（1人） 法人税（7人）
事業税（1人） 酒税（11人） 老人のための税金（2人）

問3 税金がどのように使われているか、知っていることはありますか？

国のお金。公務員の給料。国のために使われる。年金。道路管理など。無駄なことに使われている。公共事業。学校や病院をつくる。復興支援。教科書。わからない。救急車。議員の人が使っている。国の借金返済。ダム。治安維持

以上のアンケート結果から、税の知識については、自ら買い物の時に支払う「消費税」は知っているが、その他の税の知識は少ない生徒が多いことが分かった。また、税がどのように使われているかわからない生徒もいる一方、税金をなぜ払わなくてはいけないのかを深く考えている生徒もいることも分かった。

3. 指導にあたって

アンケートにより、生徒たちが税に対して「あまり良いイメージをもっていない」ということが分かった。そのような不公平感、不満感をなくすために、我々の身の回りで、どのように税が使われているかを、具体的例を出しながら、生徒の生活の中から考えさせたい。また、税がなくなったらどうなるのかを具体的に考えさせることも必要であると考え。そのため、本単元は、租税教室から税の必要性、種類など理解したうえで、国の財政について考える構成としていきたい。

4. 実践計画

時間	学習内容	おもな学習活動	指導資料
1	税とはなんだろう？	- 税金が生活に必要な理由を理解する。 - 租税教室を通して、税に関する興味を深める。	- 私たちの生活と税（国税庁HPより） - VTR「アナザーワールドへようこそ」
2	税金の行方と国の借金	- 税金の種類と、それぞれの特徴について理解する - 歳入と歳出の内容から、今後の財政のあり方を考える。	- 私たちの暮らしと税 - 借金時計（財部誠一より） - 教科書、資料集

5. 実践のポイント

(1) 一時間目 租税教室 ～税の無い世界はいったいどうなる？～

①本時の指導目標

- ・税金が生活の安定と向上に使われていることを理解する。
- ・租税について興味・関心を持ち、租税の仕組みと働きについて理解する。

②実施日時 平成26年9月24日（水）3校時目

③場所 本校体育館

④対象生徒 第3学年194名

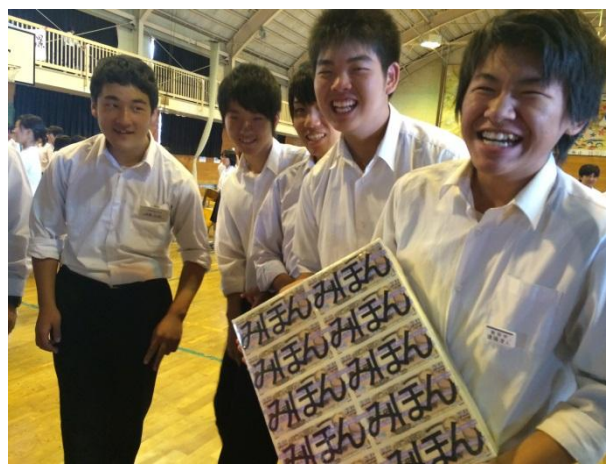
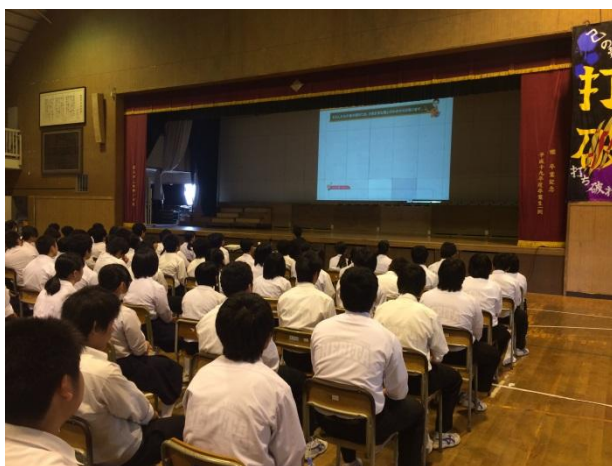
⑤講師 石巻税務署総務課 川田 真澄氏

⑥本時の流れ

- ・私たちと税のかかわりとは？
- ・なぜ、税を納めなくてはならないのか？
- ・VTR「アナザーワールドへようこそ」 税の無い世界はどうなるの？
- ・国の財政の問題とは？
- ・これからの社会と税を考えてみよう。
- ・1億円擬似体験（1億円はどれくらいの重さになるか？）

⑦生徒の感想から

- ・国民の人々が税を払っていることで、自分たちの力で国をよくしているということが分かった。そのためにはよろこんで払おうと思った。
- ・税金がなくなったら大変だと思いました。何に使われているのか分かってよかった。
- ・中学生一人当たり税金が100万円近く出されていることが分かった。その分を無駄にしないためにも、もっと勉強しようと思った。
- ・税を負担するのは大変なことだけど、税を負担しなかった時の自分たちの暮らしはもっと大変なんだなおもった。
- ・税金がなくなると、治安が悪くなってしまいうんだなと映像をみて思いました。1億円も実際に持つことができて、10kgあることを初めて知りました。
- ・今まで税が何に使われているかよくわからなくて、なんでこんなにも高いんだ！と思っていたけれど、税がないと生活が大変だし、救急車や消防車も来なかったりして大変なんだな、と思った。
- ・高いと思っても、しっかりと税金を納めていかないといけないと思った。
- ・税金の大切さを改めて知りました。これから生きていくのに、税金は必ず納税して、それが自分に返ってくるのだと思いました。
- ・今日の授業を受けて、税の必要性和使い道がよく分かった。でも、ヨーロッパのようにどんどん増えていくのかと思うと少し不安になった。
- ・これまでずっと、なぜ、消費税が8%から10%になるのか分からなかった。「普段の暮らしが快適になる分だけ、負担も大きくなる」に納得した。税の見方が少し変わりました。



(2) 二時間目 税金の行方と国の借金

①本時の指導目標

- ・税金の種類と、それぞれの特徴について理解させる。
- ・歳入と歳出の内容を読み取り、日本の借金時計から、今後の財政のあり方を考える。

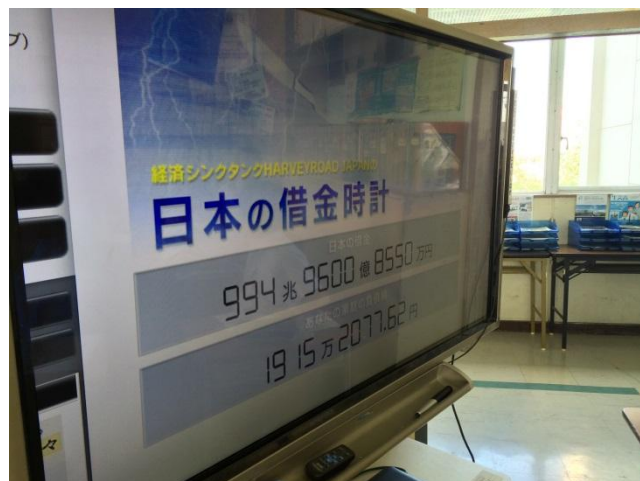
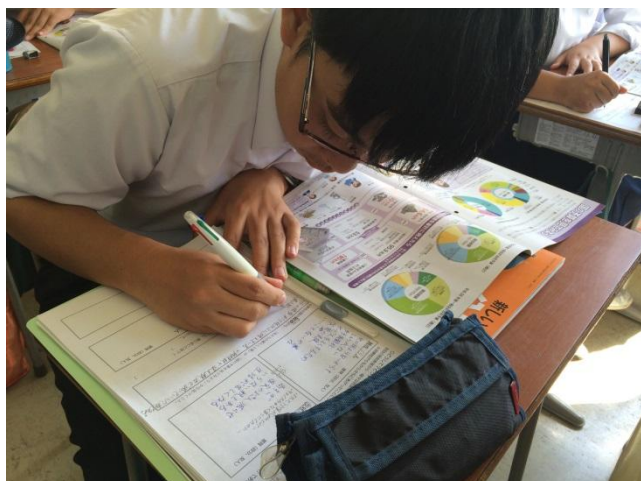
②本時の流れ

- ・消費税が8%に上がったことについて簡単なアンケートを行い、クラス内の様々な意見に触れる。

- ・ さまざまな税の種類について確認させ、それが私たちの生活にどのようにかかわっているかについて考えさせた。
- ・ 歳入と歳出のグラフを読み取り、公債が多いことについて触れて、日本の借金時計を例示し、日本の財政の問題点について考えさせることができた。

③生徒の感想から

- ・ 税金が上がっても、景気が良くなることを期待したい。
- ・ 今まで借金を感じなかったけれど、日本には多くの借金があることを今日とても感じた。豊かだと思っていたけれど…でも、この借金がいつ減っていくのだろうか。一方的に増えているので、減る気がしない。
- ・ このままで大丈夫なのかと不安になりました。これから消費税が10%に増えるかもしれないけれど、正直それが正しいのかはよく分かりません。やっぱり消費税は上げないと仕方がないのかなと思いました。
- ・ 消費税を上げるのは構わないけれど、その前に若い人がちゃんと1つの家庭を持てるように、ちゃんと仕事ができる環境にしないとダメだと思う。それができないから少子高齢化になるのだと思った。
- ・ 国がお金を使いすぎなのが悪いのに、なんでそれを国民が背負わなきゃいけないのか分からない。
- ・ 日本がよく今のシステムで成り立っているなと思いました。なので、5%から8%～10%とあがっても国を存続させるには仕方がないことだと思いました。



6. 実践を終えて（○は成果 ●は課題）

- 租税教室を通して、生徒が税とは何か、納税の大切さをより身近に感じる事ができた。
- なぜ税金を国に納めなくてはいけないのか、という生徒の疑問を解決することができた。
- 財政のあり方を考えるために、借金時計を提示したが、国の借金ということだけに注目してしまった生徒が多かった。
- 今回は消費税に着目したが、生徒から出てきた疑問を使って、授業を展開してもよかったのかと考えた。